

2024 年 11 月 18 日

日本ワクチン学会

## 報 告

第 28 回日本ワクチン学会・第 65 回日本臨床ウイルス学会 合同学術集会 緊急企画  
「ワクチンを正しく理解する」

座 長：谷口 清州（第 28 回日本ワクチン学会長、国立病院機構三重病院）  
西村 直子（第 65 回日本臨床ウイルス学会長、江南厚生病院）

次 第：「新型コロナワクチンに関する日本ワクチン学会の見解」

演者：中野 貴司（日本ワクチン学会理事長、川崎医科大学）

指定発言 1

演者：東 雄一郎（厚生労働省 医薬局 医薬品審査管理課）

指定発言 2

演者：吉原 真吾（厚生労働省 健康・生活衛生局感染症対策部 予防接種課）

2024 年 10 月 1 日より、新型コロナワクチンの定期接種が開始された<sup>1)</sup>。これに向けて、一般社団法人 日本感染症学会、一般社団法人 日本呼吸器学会、日本ワクチン学会の 3 学会は、「2024 年度の新型コロナワクチン定期接種に関する見解」を共同で作成し（2024 年 10 月 17 日付）、各学会のホームページ上で公開した<sup>2)</sup>。

新型コロナワクチンの定期接種の開始とそこで用いられる個別のワクチンに関して、3 学会合同でまとめられた見解の内容も含めて、SNS (Social Networking Service ソーシャル・ネットワーク・サービス) を中心とするインターネット上やマスメディアにおいて、一部に科学的に適切ではない情報および考察の提示や議論がなされ、エスカレートして、社会的に好ましくない様々な事象の発生が伝えられるところとなっている。

こうした状況に対して、2024 年 10 月 26・27 日に名古屋市で開催された第 28 回日本ワクチン学会・第 65 回日本臨床ウイルス学会 合同学術集会<sup>3)</sup>において、2 日目の早朝に「ワクチンを正しく理解する」と題した 30 分間の緊急企画がプログラムに盛り込まれた<sup>4)</sup>。その内容と登壇者は上記のとおりである。

まず、日本ワクチン学会の中野貴司理事長が、「新型コロナワクチンに関する日本ワクチン学会の見解」と題して講演した。適正ではない情報があたかも正しいかのような認識が国民の間に広がっていることに対する懸念をもとに、3 学会合同で見解が出されたという経緯が説明された。特定の製品を取り上げたものではなく、定期接種として使用される 5 つの製品全体についての見解であることが付言された。ワクチンに関しては有効性と安全性の

バランスが求められ、これを客観的に伝えていくことが大切であるとした。

続いて、指定発言 1 として、厚生労働省医薬局医薬品審査管理課の東雄一郎氏が講演し、新型コロナワクチンに限らずワクチン全般について、正しくない情報が流布されている現況を指摘した。「遺伝子に組み込まれる」「治験が終わっていない」「国は、臨床試験においてワクチンによって多くの方が死亡したことを認めている」等の新型コロナワクチンに関する声を“正しくない噂”の例として挙げ、さらにはすでに科学的に安全性が確認されている、かつて取り沙汰されたワクチンにまつわる嫌疑について再び不正確な情報が流布されることも散見されるとした。厚生労働省としてはこうした現況に対して、Q&A の形式などで正しい情報を可及的速やかに公開するよう努めていることを説明した。また、新型コロナワクチンに関しては、国際的なコンセンサスの下、治験の被験者をこれまでよりも長くフォローし、長期に渡って有効性や安全性が認められるかについて情報収集を行う方針で開発されたことを強調した。

最後に、指定発言 2 として、厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課の吉原真吾氏が講演し、改めて丁寧な情報提供が大切であると考えていることを訴えた。新型コロナワクチンについて、昨年度までの臨時接種と今年度の秋冬からの定期接種は、科学的知見等を踏まえて議論がなされて接種プログラムが開始されてきたこと、今年度使用されるワクチンについても科学的知見を踏まえて位置づけたこと、これまでの接種において、入院予防効果等の有効性は国内外の複数の報告で示されており、安全性についても重大な懸念は認められないことを述べた。また、副反応疑い報告制度と健康被害救済制度の趣旨の違いについて言及された。

会場の参加者からは、産官学の連携でこうした議論の場が設けられたことに対する賛意の表明のほか、専門家ではない“普通の人”がアクセスしやすくわかりやすい情報の伝え方の要望、海外からどのように見られているかについて HPV ワクチンの騒動を繰り返さないよう学会として思いを巡らす必要性、などの意見やコメントが出された。30 分間の緊急企画は、熱気に包まれたまま、予定の時刻に終了となった（写真）。

2019 年末に中華人民共和国の武漢で最初の症例が発表されて始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックに際し、驚異的なスピードで開発された mRNA ワクチンは、世界中で集団免疫の底上げに大きく貢献して、重症者や死亡者の発生を抑制した。この mRNA ワクチンは新しいモダリティ（種類、タイプ）であることや、従来のワクチンでは経験されなかった副反応の種類や程度、頻度もあつてのことと推察されるが、わが国でも広く接種されるプロセスにおいて、反対を含む様々な議論が展開されてきた。

mRNA ワクチンに代表される新型コロナワクチンは、新たな技術の応用による新しいモダリティであるからこそ、パンデミックの中にあっても、厳格に定められた規定に則った治験が国・地域ごとに実施され、科学的な評価と議論の末に認可されて、使用されるに至っている。パンデミックの始まりから約 5 年が経過し、2024 年 11 月現在、わが国では 5 種類

のワクチンが定期接種として使用可能<sup>5)</sup>であるが、認可までに数年を要したワクチンや、いまだに認可のプロセスにあるワクチン、さらには認可以前に開発を断念することになったワクチンもある。新型コロナワクチンの治験や認可が純粋に科学的な評価と議論の下になされ、それだけが特別な扱いをされているわけではない証左でもある。

新型コロナワクチンは、短期間にかつてない人数の国民に接種されたこともあり、ワクチン接種後に様々な体調不良(有害事象)を呈した者の数は相当数に上っている。この中には、時間的な前後関係があるのみでワクチンの関与が否定的な”紛れ込み”の可能性が高い例がある一方で、ワクチンの関与が否定できない例や、ワクチンの副反応が強く疑われる例も存在する。また、予防接種健康被害救済制度において救済が行われた例数も多い。これら接種後の有害事象については、ワクチンとの因果関係の評価を含めた科学的な検証が継続して行われている。実際、ワクチンとの因果関係が強く疑われる死亡例や重症例も一定数存在することを、我々は決して忘れてはならない。また、当事者やその関係者、それにワクチンに対して懐疑的な思いを抱く方々も含めて、誠意をもってコミュニケーションを保ち続けていくことも大切である。

今回のパンデミックにあたって次々と新しいモダリティのワクチンが登場したその根底には、各国の研究開発者による長年に渡って莫大なエネルギーが注がれた緻密な研究の積み重ねがある。その原動力は、人々の健康を、命を、ワクチンで守るという真摯な思いである。

さらには、新型コロナワクチンの治験には、他のワクチンや医薬品と同様、生後6か月以上の小児から高齢者まで、多くの方々が被験者として参加され、協力をされたからこそ、認可されて広く使用することができるようになったものである。

上述のように、ワクチンが世に出る前の治験から、使用開始後の安全性についての管理・検討まで、一貫して科学的な態度により評価と議論がなされている。しかるに、新型コロナワクチンを巡る一部の科学的に適切ではない言説は、丁寧に積み重ねられてきているプロセスや、研究開発者の真摯な思いに基づく努力、使命感と勇気を持って治験に参加し、協力された方々の思いと苦労を否定し、踏みにじって、貶(おとし)めるものにほかならない。そればかりか、憶測に基づいて事実とは異なる表現も見られ、殊に匿名性の高いSNSを中心としたインターネット上では、誹謗中傷と言わざるを得ない類のやりとりもある。

同様の流れは、わが国において近年、HPVワクチンを巡って経験されたところである。その接種率の著しい低下、ひいては予防できるはずの子宮頸がん等の疾患を予防できなくなる、ワクチンで守れるはずの命を守れなくなるという懸念を、諸外国に抱かれるに至った<sup>6)</sup>。こうした科学的に適切でない騒動によって、ワクチンの信頼性が揺らぐ事態を繰り返してはならない。それと共に、様々な立場や考えを有する方々との丁寧なコミュニケーションの重要性も、肝に銘じるべき教訓である。

人々の健康と命を守るという真摯な思いを原動力として、科学的なプロセスの積み重ねによって我々が手にすることができるワクチンが、正しい理解の下に接種され、その使命を

果たしていくために、日本ワクチン学会は努力を惜しまない所存である。

以上。

文献：

- 1) 新型コロナワクチンについて。厚生労働省：  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_00184.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html). (2024年11月17日閲覧)
- 2) 2024年度の新型コロナワクチン定期接種に関する見解。一般社団法人 日本感染症学会，一般社団法人 日本呼吸器学会，日本ワクチン学会：  
<https://www.jsvac.jp/pdfs/20241017.pdf>. (2024年10月17日掲載、2024年11月17日閲覧)
- 3) 第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会 合同学術集会：<https://cs-oto3.com/jsvacjacv2024/>. (2024年11月17日閲覧)
- 4) 緊急企画。第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会 合同学術集会：  
<https://cs-oto3.com/jsvacjacv2024/program.html>. (2024年11月17日閲覧)
- 5) 新型コロナワクチン定期接種リーフレット（令和6年10月版）。厚生労働省：  
<https://www.mhlw.go.jp/content/001307425.pdf>. (2024年11月17日閲覧)
- 6) Global Advisory Committee on Vaccine safety Statement on Safety of HPV vaccines, 17 December 2015. WHO: [https://cdn.who.int/media/docs/default-source/pvg/vaccine-safety/gacvs/gacvs\\_hpv\\_statement\\_17dec2015.pdf?sfvrsn=6bd04fd6\\_1](https://cdn.who.int/media/docs/default-source/pvg/vaccine-safety/gacvs/gacvs_hpv_statement_17dec2015.pdf?sfvrsn=6bd04fd6_1). (2015年12月17日掲載、2024年11月17日閲覧)

日本ワクチン学会

理事長	中野 貴司			
役員	石井 健	宇野 信吾	神谷 元	城野 洋一郎
	齋藤 昭彦	鈴木 忠樹	高橋 宜聖	武下 文彦
	田中 敏博	谷口 清州	多屋 馨子	成瀬 毅志
	長谷川 秀樹	原 めぐみ	宮崎 千明	森内 浩幸
	四柳 宏	脇田 隆宇		

(五十音順)

写真：当日の会場の様子（代表撮影）

